

## 子育て中の看護師の紹介 (大学病院の救命救急センターで働く武田さんと紺野さん)



武田 博子さん



紺野 千穂さん



一昨年に仕事に復帰し、子供も3歳を迎えました。今は育児時間を頂いています。集中ケア認定看護師として院内外の講義やコンサルテーション、執筆なども少しずつ始め、多忙ながらも充実した日々を送っています。仕事を終えて、保育園帰りの車の中で息子が「雲さんも、おうちに帰るのかなぁ・・・」「お月様きれいだねえ・・・」など1日の出来事を話し、童謡を歌いながら帰路に着きます。とても充実した癒しの時です。主人も子どもに優しいパパで、家事・育児に積極的に参加してくれます。育児と仕事を両立できるのも、職場のスタッフの協力と温かい支え、家族の協力があるからこそだと、日々感謝しています。



3歳の息子と1歳になる娘がいます。夫の協力をもらい、月に1~2回程度の夜勤をしています。家庭では、出来るだけ子供と一緒に就寝できるようにし、朝早く起床し家事や自分の準備を済ませて出勤しています。職場では、師長をはじめスタッフの協力を得て、出来るだけ定時で終了させてもらっています。子育てしながらの仕事は、色々な方々のサポートがあってこそだと日々感じています。また、子供は親の思う通りにはいかないことを念頭において、「カリカリ」「セカセカ」しないという気持ちで頑張っています。



師長 藤野 智子さん

「ママさんナースも働ける救命センター」を可能とするには、「時間」と「休暇」対策につきます。現在勤務している5名のママさんナースは、それぞれオリジナルな勤務形態を作っています。受持ち患者の情報はスタッフ全体で情報提供し、退勤時間前には、管理者が本人とスタッフへ声を掛け協力体制を取るよう促しています。一方、子供の病気による突発的な休暇に対しは、前夜や早朝からメールで情報交換し、事前に業務調整をしています。今年の新人の中には、「結婚してからも働きたいと考えており、ここの救命は結婚して働いているスタッフが多いので、就職を決めました」という方もいるぐらいです。女性としてのライフサイクルを上手くサポートし合えるスタッフ達は、なんとも頼もしく誇らしくと自負しています。

## 西部病院の保育園設立計画



聖マリアンナ医科大学の念願の夢でありました、院内保育所の設置を、西部病院で準備しています。医師・看護師をはじめとした、教職員の雇用促進及び離職防止対策として院内に保育所を設置することにより、福利厚生の実現を図ります。設置場所は地下1階職員食堂前で、2階建事務管理棟の1階部分に保育所が入る予定です。工事着工は10月、院内保育所開所は、平成21年1月を目指しております。現在、昨年実施した保育所のアンケート結果を参考に、運用計画を詰めている段階で、近い時期に、保育所の名前の募集、保護者説明会を実施する予定であります。限られた条件の中で、園児の安全対策はもとより、多様な保育ニーズに応えられる魅力のある保育所を目指す所存です。

総務課長 石田 隆弘

## 募集活動



横浜新都市ホール



9月13日(土)  
SMS主催の合同説明会  
126名の集客があり、32名の学生さんと既卒の方が、説明を聞きに来られました。



新宿エルタワー

9月14日(日)  
SMS主催の合同説明会  
147名の集客があり、29名の既卒の方が、説明を聞きに来られました。

お知らせ 次回 ナースサポートセンター運営会議 12/15(月) 12:00~13:15 大学病院第1会議室